



稲穂も頭を垂れる秋に向けて

校長 竹 下 賢

生徒たちにとっても大変楽しみであった夏休みも終わり、1学期の後半が始まりました。生徒が全員、病気や怪我をすることなく、元気に顔をそろえてくれたことが何よりも嬉しいことです。

3年生は、夏休みを返上して勉強に打ち込んだこともあるのか、緊張感のある引き締まった表情をしています。また、1・2年生、とりわけ2年生は、「あっ、ちょっと成長したな」と思わせるような、体の伸びと大人っぽさが見られます。

さて、先週の土曜日には、渋谷区立中学校フレンドリー水泳大会が開かれ、松濤中学校からも15名の生徒が参加しました。別記のように、銀メダル1個、銅メダル2個獲得するなど、大きな成果をあげました。1・2年生が他校の上級生にも負けじとばかり懸命に泳ぐ姿は、胸に迫るものがありました。

これからの季節は、1年中で最も過ごしやすく、勉強にスポーツに最適な時期になります。いよいよ3年生にとっては、進路選択の重要な季節になります。焦らず、あわてず、しかし、気をしき締めて頑張りたいと思います。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という諺があります。学問を深め、修養を積むほど、人は謙虚にならなければならないということを教えるものです。生徒たちには、将来、頭が垂れるほど識見を深め、人間性が高まるよう、この時期一人一人が努力をしてほしいと思います。

人を迎える ところで、夏休み期間中は、それぞれの生徒が、部活動や水泳、補習教室、ボランティア活動、富山臨海学園、合同部活動合宿等々、いろいろな活動に積極的に取り組んでいました。そんな中で、Art Room Painting Project と称して、本校の美術教室のペンキ塗りが行われました。これは、ALTの Ms. Gillespie の発案によるものですが、折からの台風で大雨が降る中、3日間にわたり、多いときで16名の生徒が協力してくれました。子どもたちの素直な「やる気」に、なかなか捨てたものではないと改めて感心しました。

また、後で話を聞いたところによると、Gillespie 先生が、そもそも美術室をきれいにしたいと思ったのは、生徒たちに、できるだけ明るく快適できちんとした環境で学ばせたいという思いに加えて、— 英語で授業をしていることから美術室にはよく参観者が見えることもあって — 参観者がいい気持ちになり好感をもつようにしたいという気持ちがあったようです。お客さまに対して礼儀を尽くそうとする心に触れ、ハッとして我が身を振り返り、反省させられた夏の一時でありました。

第23回 社会環境を明るくしよう渋谷区民のつどい「中高生の発表会」より
(7月21日開催)

私たちの未来 松濤中学校代表 3年A組 バッチジャルガル フラン

私は最近、自分の将来やこれからの世の中に対して、心配になることがあります。その原因は大人です。大人はよくこう言います。「子供なんだから、わからないでしょ。」「子供なんだから、できないでしょ。」と「子供なんだから」という言葉の後ろに、ネガティブを付け加えます。私も、以前この言葉に賛成でした。「子供は大人になるまで、大人に任せればいいんだ。」「子供のことは大人が決めればいいんだ。」と。でも、今は違います。確かに子供が健康な体でいられるのも、食べていけるのも大人のおかげです。しかし、すべて大人に任せて、頼ってばかりいると後悔することもあるでしょうし、何よりも自分が持っている力を発揮できないと思います。だから、子供の意志や考えをはっきり示し、自分の未来を自分で決めていくべきです。ひとは成長するとともに、たくさんの知識やいろいろな技術を身につけていきます。一方では大人になるにつれて自分が持っている本来の心の輝きを失っていくのです。人間は誰もがその輝きを必ず持って生まれてくると私は確信しています。確信している理由について、お話ししたいと思います。

私は先日、国語の時間に、カンボジアの難民を主題した文章を読みました。そこにある難民キャンプは、重度栄養失調の子供たちを収容し、一日に一回しか食事ができないところでした。そこで、筆者が日にしたのは、飢えと戦いが続く極限状況の中で、わずか三歳の女の子が自分の食事を他人に分けてあげる光景でした。これには大変驚かされました。はたして、自分だったら同じことをやれたでしょうか？私はきっとできなかったと思います。彼女は言葉も満足に話せず、教育も受けられない子供であるにも関わらず、他の子への優しさを示したのです。この女の子が本来もって生まれた輝きをを見せてくれたのです。

この文章を読んだ後、私は同じように小さな子供に驚かされた出来事を思い出しました。それは私が家族と一緒に温泉に行ったときのことで、私は露天風呂に入ろうとドアを開けたものの、閉めるのが面倒だったのでそのまま開け放しにしてしまいました。そして、お湯につかっていると、五歳くらいの子が入ってくるのが見えました。その子は私が開け放したあの重いドアを、全力で閉めているのです。私はその姿を見て、「偉いなあ。」と思いました。どうして自分はドアを閉められなかったのでしょうか。どう見ても私の方が力があり、開けたら閉めるという常識を知っているはずなのに、もしかしたら今の私は当たり前ことができなくなった大人たちに流されていたのかもしれない。

このように、子供には大人が失ってしまったようなことがきちんとできるのです。今の大人たちも子供の時はこの輝きをもっていたと思います。でもどうして大人になってから大半が変わってしまうのでしょうか。それだけでなく、彼らは自分たちのような大人を次々に育てているように見えます。だからこのままでは、とても心配なのです。わたしもそれを失いかけていました。

私が言いたいことは、「子供もだからできないでしょうか？」というのではなく「子供だからこそもっとももっとできるようになりなさい。」というように、子供に目を向けてほしいのです。子供たちが生まれながらにもっている他者への思いやりや人としての当たり前のことなど、心の輝きをそのまま育てていって欲しいのです。そして、子供たちは、自分たちの輝きを失わない大人へ成長すべきだと思います。

学校土日クラブ・フレンドリー水泳大会の結果

男子	100m	自由形共通男子	第二位	高崎 兼一	1年B組
男子	100m	平泳ぎ共通男子	第三位	麓 博行	2年B組
女子	50m	背泳ぎ共通女子	第三位	佐藤 麗奈	1年B組
女子	50m	背泳ぎ共通女子	第四位	石亀 光	1年B組
男子	50m	背泳ぎ共通男子	第五位	小林 寛	1年B組
男子	50m	バタフライ男子	第五位	佐々木 健人	1年B組